



あら 新たなる飛翔、ひ しょう 恵みの杜に めぐ もり きず ろ まん みずづみ 築く浪漫の湖

盛岡広域振興局土木部築川ダム建設事務所 平成22年12月発行

「未踏の橋」の作者 久慈さんをお招きしました。

去る11月4日、当事務所では、第63回岩手芸術祭「日本画部門」において芸術祭賞を受賞された久慈富子さん（矢巾町在住）を、建設中の築川道路にお招きしました。久慈さんの受賞作「未踏の橋」は、築川道路の9号橋をモデルに、ご主人との思い出を表現した作品とのこと。ぜひ「未踏の橋」を渡っていただきたいと思いご連絡させていただいたところ、久慈さんが快くご了承くださったことから実現しました。久慈さんから、貴重な作品への思いについてお伺いすることができたので、いくつか紹介させていただきます。

…「未踏の橋」を描かれたきっかけは何ですか。

一昨年のちょうど今頃に、主人と根田茂川を訪れた際に、そのとても神秘的ですばらしい景色に感銘を受けました。しかし、それから約1か月後に主人が病気で倒れ、一命は取り留めたものの後遺症が残り、大好きだった山歩きもできない体になってしまいました。私は「あの時の主人との思い出をどうしても残しておきたい」と思い、絵を描くことにしました。

…作品を完成するのにどのくらいかかりましたか。

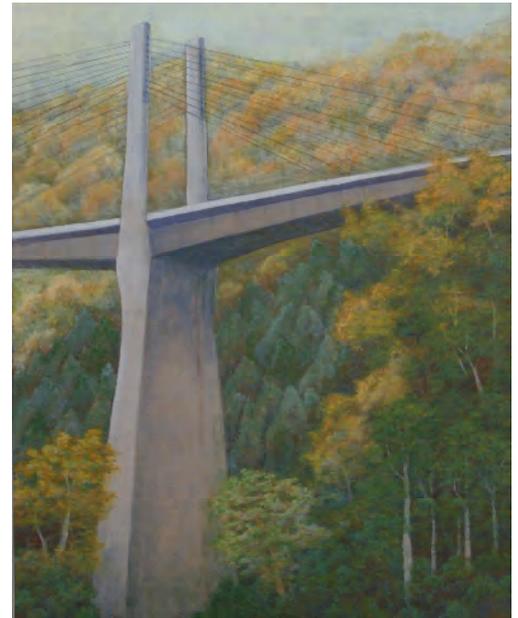
構想を含めると、3ヶ月くらいかかりました。

…実際にこの橋を見ていただいた感想をお聞かせください。

渡れると思っていたいなかったので、とても感動しました。この橋からの紅葉の絶景は、私の脳裏にしっかりと焼きつくと思います。受賞のきっかけを作ってくれた主人に感謝したいと思います。

この後、久慈さんから、お礼のお手紙までいただきまして、本当にありがとうございます。ダムが完成した際には、ぜひ、リハビリに専念されている御主人と一緒にいらしていただきたいと思います。

なお、久慈さんの作品は、2011年2月26日(土)～3月21日(月)に県立美術館で開催される『アートフェスタいわて2010 一岩手芸術祭推薦作家展一』で展示される予定です。ぜひ、皆さまも足を運んでみてはいかがでしょうか。



【日本画部門・芸術祭賞】「未踏の橋」



久慈富子さん(左) 高橋所長(右)

大規模事業評価、ダムの検証の状況をお知らせします。

岩手県では大規模な予算を伴う事業について、その必要性や実施方法について検討し、県民の皆様へ十分に説明していくことを目的として「事業評価制度」を導入しています。

今年度、築川ダム建設事業は、前回の再評価から5年経過しているため本制度の評価対象となっており、10月25日から大規模事業評価専門委員会による審議が行われています。なお、当委員会では、国から要請されている『ダム事業の検証に係る検討』についても併せて審議されています。

今後は、数回の審議と関係地方団体・関係住民・学識経験者等からの意見をお伺いして、平成23年3月までに対応方針を決定し、国に報告する予定となっています。

詳細の情報をお求めの方はホームページでもご覧になれます。

(県)大規模事業評価 ⇒「岩手県」-「公共事業評価・大規模事業評価」} で検索できます。
 (国)ダムの検証 ⇒「国交省河川局」-「今後の治水対策のあり方」}

検証中だよ。



